

## 週刊 座、グレート・リーダーズ通信

## 『インド私録-思い切り取り組んだこの50年-』No.5

今週のキーワード! アジア競技大会  
第1回ニューデリー、今年は広州

4年に一回行われるアジア競技大会は今年11月、中国の広州で第16回大会の開催を迎えます。日本オリンピック協会(JOC)によれば、参加国(地域)45、競技数42の予定。約60年前のニューデリーでの第1回大会が11カ国(地域)、6競技、参加選手は約500名でしたので、この地域の発展とともに確実に規模が拡大してきたことが伺えます。

4年に1回のアジア競技大会開催は、第2次世界大戦後初の開催となった1948年のロンドンオリンピックで初参加を果たしたインド、フィリピン、朝鮮、中華民国(現台湾)、セイロン(同スリランカ)、ビルマ(同ミャンマー)の6カ国の決定でした。しかし、ニューデリーでの

第1回開催は準備の遅れなどから当初予定の1950年秋から1951年3月にずれ込んだという経緯がありました。(JOCサイト)

こうした問題を乗り越え、ともかくも開催された第1回大会には、第2次大戦で敗戦国としてロンドンオリンピックに不参加だった日本が、開催国インドのネルー首相の政治的判断で参加を果たし、その結果、金24、銀21、銅15の合計60個のメダルを獲得して大活躍、ネルー首相の意気に応えたのです。

それから31年後の1982年11月、同じくニューデリーで開催された第9回大会の開会式に武藤氏の姿がありました(写真)。氏はその前年から日本選手団のアタッシュ(世話係)として、選手の受け入れやインド当局との折衝などに奔走。それに感謝した選手団からともに入場行進することを要請されたのです。

なお、33カ国(地域)が参加、20競技、参加選手4,635名の同大会で日本は金57、銀52、銅44のメダルを獲得しましたが、このとき金メダル数は初めて中国に抜かれることになりました。

外交とは一種の格闘技  
醍醐味は人間関係

『インド私録』にあるように、第9回アジア大会で日本選手に下されたドーピング陽性による失格判定を覆し、1984年の非同盟諸国首脳会議では本来入手不可能な書類を入手、加盟国以外は入場不可の会議場への潜入を果たした武藤氏は、外交についてこう語っています。「外交官の仕事は相手国の情勢を把握し、情報を入手すること。これはスパイでもなんでもなくて、国際協定で認められている外交官の職務です。外交とは結局個人と個人の信頼関係の上に成り立つ。実のある情報を獲得するには、相手に情報を提供するに値する人間であると思わせなければならない。外交とは国益を背負っている人たちとの一種の格闘技。そのために食事に呼んだり呼ばれたりもするが、一番よいのは家族ぐるみで付き合うこと。外交の醍醐味は相手との人間関係がうまくいったときですなあ」。

ラジオ・ニュームンバイか  
らのお知らせ

ご意見・ご感想をお寄せください。

rnm@radio-new-mumbai.com

次回放送は7月13日です。また来週～。



第9回アジア競技大会開会式  
1982年11月19日 ニューデリー・ネールスタジアム

入場行進に参加する武藤氏。このときのユニフォームはまだとってある。(写真提供 武藤友治氏)